

# 太田商工会議所管内景況調査報告書

(第86回)

平成30年 4月～6月期 実績

平成30年 7月～9月期 見通し

## 太田商工会議所

〒373-8521 群馬県太田市浜町3-6

TEL 0276(45)2121

FAX 0276(45)1088

URL <http://www.otacci.or.jp>

E-Mail [info@staff.otacci.or.jp](mailto:info@staff.otacci.or.jp)

## 太田商工会議所 景況調査 目次

調査要項・・・・・・・・・・・・・・・・	1
調査目的や対象企業（業種）、回答率など	
設問に対する業種別回答・・・・・・・・	2
9つの質問に対する業種別による回答状況	
業種別D I 値について・・・・・・・・	5
6つの業種ごとのD I 値及び回答企業からのコメント	
全体D I 値について・・・・・・・・	9
全ての業種を併せたD I 値と1年間の推移	
比較資料編・・・・・・・・・・・・・・・・	10
同様の景況調査を行っている機関とのデータ比較 （中小企業基盤整備機構、日本商工会議所LOBO調査、日銀短観）	

第82回・平成29年4～6月調査からは、依頼企業数を150社から270社へ増やすとともに、対象業種を6つに絞った（従来は10業種）。

これは、各地域・機関で行っている同様の調査結果と比較できるように工夫したもので、巻末に比較資料編を付けてある。

## 【調査要項】

### 1. 目的

管内経済動向を把握し、併せて経営者への情報提供とするとともに、今後の経営指導の資料とする。

### 2. 調査時点及び対象期間

- ① 調査時点 平成30年5月～6月
- ② 調査対象期間 今期（平成30年4月～6月期）に対する前期（平成30年1月～3月期）及び前年同期（平成29年4月～6月期）との比較実績、並びに今後3ヶ月間の業況見通しについて調査。

### 3. 調査対象

当所会員事業所の業種を5つ（製造業、建設業、卸売業、小売業、サービス業）に分類し、製造業に関しては、更に「輸送機器」と「その他製造業」に分けた。

調査対象先の企業数については、太田商工会議所会員事業所の業種割合にて案分し、下記の通り調査を実施した。

### 4. 回答状況

	依頼数	回答数	回答率
全 体	270	→ 209	(77.41%)
輸送機器	40	→ 32	(80.0%)
その他製造	40	→ 36	(90.0%)
建設業	50	→ 35	(70.0%)
卸売業	30	→ 24	(80.0%)
小売業	40	→ 30	(75.0%)
サービス業	70	→ 52	(74.3%)

### 5. D I 値について

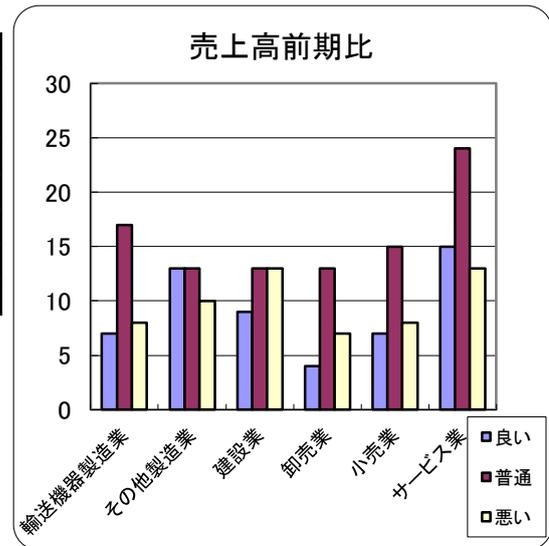
D I とは、ディフュージョン・インデックス (Diffusion Index) の略で、良い（増加）と答えた企業の割合から、悪い（減少）と答えた企業の割合を引いたもので、企業経営者の景況判断をみる指標である。

(例：ある設問において、「良い」と答えた企業…15% 「悪い」と答えた企業…25%の場合、D I 値は▲10.0となる。)

# (1)設問に対する業種別回答

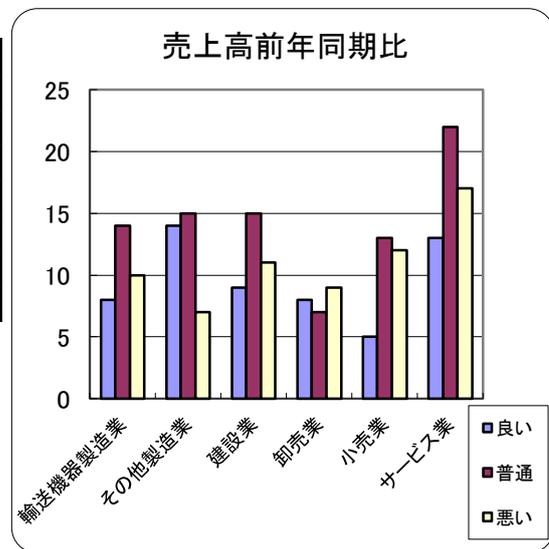
## 売上高前期比

	良い	普通	悪い	合計	DI値
輸送機器製造業	7	17	8	32	▲ 3.1
その他製造業	13	13	10	36	8.3
建設業	9	13	13	35	▲ 11.4
卸売業	4	13	7	24	▲ 12.5
小売業	7	15	8	30	▲ 3.3
サービス業	15	24	13	52	3.8
合計	55	95	59	209	▲ 1.9



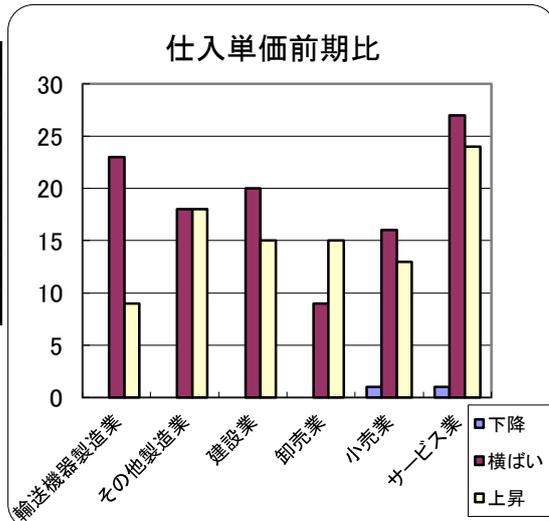
## 売上高前年同期比

	良い	普通	悪い	合計	DI値
輸送機器製造業	8	14	10	32	▲ 6.3
その他製造業	14	15	7	36	19.4
建設業	9	15	11	35	▲ 5.7
卸売業	8	7	9	24	▲ 4.2
小売業	5	13	12	30	▲ 23.3
サービス業	13	22	17	52	▲ 7.7
合計	57	86	66	209	▲ 4.3



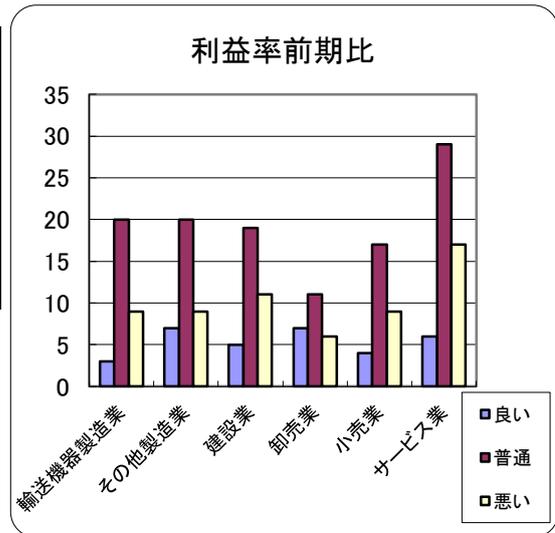
## 仕入単価前期比

	下降	横ばい	上昇	合計	DI値
輸送機器製造業	0	23	9	32	▲ 28.1
その他製造業	0	18	18	36	▲ 50.0
建設業	0	20	15	35	▲ 42.9
卸売業	0	9	15	24	▲ 62.5
小売業	1	16	13	30	▲ 40.0
サービス業	1	27	24	52	▲ 44.2
合計	2	113	94	209	▲ 44.0



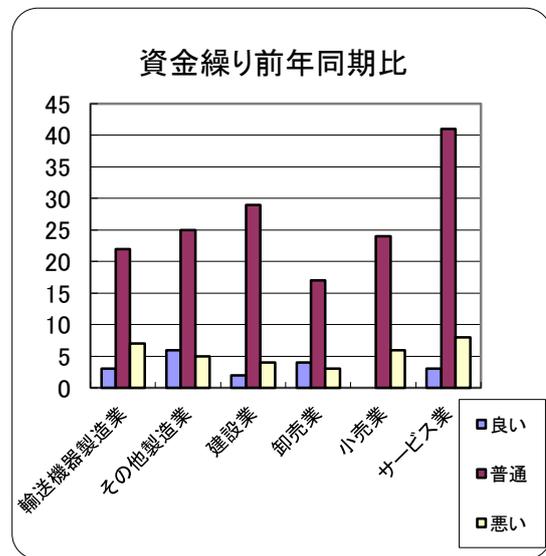
### 利益率前期比

	良い	普通	悪い	合計	DI値
輸送機器製造業	3	20	9	32	▲ 18.8
その他製造業	7	20	9	36	▲ 5.6
建設業	5	19	11	35	▲ 17.1
卸売業	7	11	6	24	4.2
小売業	4	17	9	30	▲ 16.7
サービス業	6	29	17	52	▲ 21.2
合計	32	116	61	209	▲ 13.9



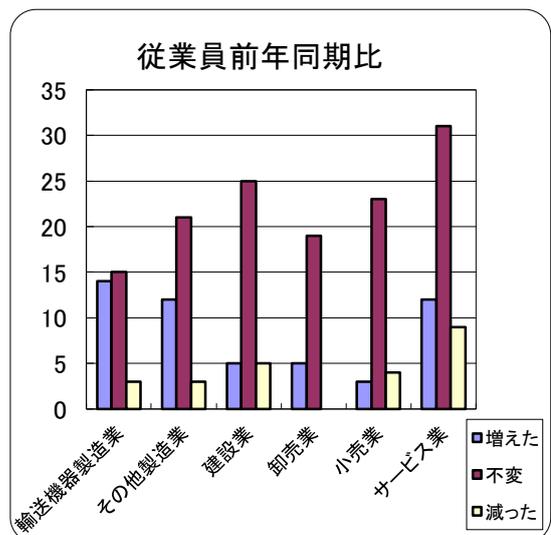
### 資金繰り前年同期比

	良い	普通	悪い	合計	DI値
輸送機器製造業	3	22	7	32	▲ 12.5
その他製造業	6	25	5	36	2.8
建設業	2	29	4	35	▲ 5.7
卸売業	4	17	3	24	4.2
小売業	0	24	6	30	▲ 20.0
サービス業	3	41	8	52	▲ 9.6
合計	18	158	33	209	▲ 7.2



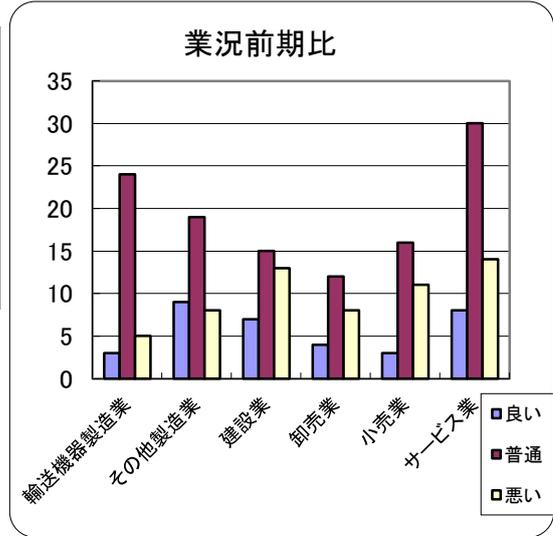
### 従業員前年同期比

	増えた	不変	減った	合計	DI値
輸送機器製造業	14	15	3	32	34.4
その他製造業	12	21	3	36	25.0
建設業	5	25	5	35	0.0
卸売業	5	19	0	24	20.8
小売業	3	23	4	30	▲ 3.3
サービス業	12	31	9	52	5.8
合計	51	134	24	209	12.9



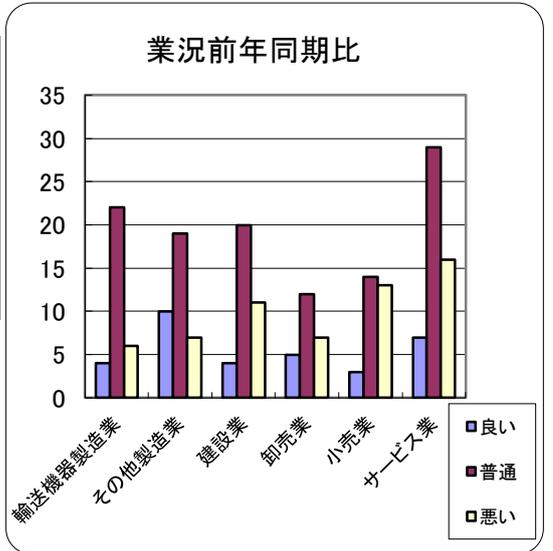
業況前期比

	良い	普通	悪い	合計	DI値
輸送機器製造業	3	24	5	32	▲ 6.3
その他製造業	9	19	8	36	2.8
建設業	7	15	13	35	▲ 17.1
卸売業	4	12	8	24	▲ 16.7
小売業	3	16	11	30	▲ 26.7
サービス業	8	30	14	52	▲ 11.5
合計	34	116	59	209	▲ 12.0



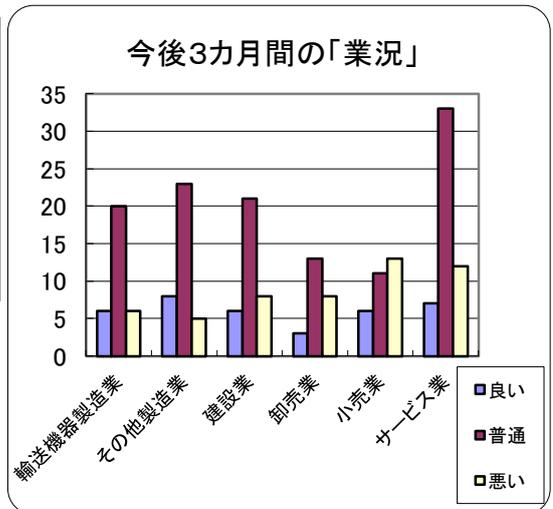
業況前年同期比

	良い	普通	悪い	合計	DI値
輸送機器製造業	4	22	6	32	▲ 6.3
その他製造業	10	19	7	36	8.3
建設業	4	20	11	35	▲ 20.0
卸売業	5	12	7	24	▲ 8.3
小売業	3	14	13	30	▲ 33.3
サービス業	7	29	16	52	▲ 17.3
合計	33	116	60	209	▲ 12.9



今後3ヶ月間の「業況」見通し

	良い	普通	悪い	合計	DI値
輸送機器製造業	6	20	6	32	0.0
その他製造業	8	23	5	36	8.3
建設業	6	21	8	35	▲ 5.7
卸売業	3	13	8	24	▲ 20.8
小売業	6	11	13	30	▲ 23.3
サービス業	7	33	12	52	▲ 9.6
合計	36	121	52	209	▲ 7.7



## (2) 業種別DI値について

「ほぼ全ての業種で売上高・業況が回復するも、人手不足に伴う派遣労働者の賃金アップ、原油価格の高騰による仕入単価の上昇が、経営に強く悪影響を及ぼす」

輸送機器	前期(1～3月期)	今期(4～6月期)	比較増減
売上高前期比	▲ 15.2	▲ 3.1	12.1
売上高前年同期比	▲ 9.1	▲ 6.3	2.9
仕入単価前期比	▲ 30.3	▲ 28.1	2.2
利益率前期比	▲ 24.2	▲ 18.8	5.5
資金繰り前年同期比	▲ 3.0	▲ 12.5	▲ 9.5
従業員前年同期比	39.4	34.4	▲ 5.0
業況前期比	▲ 21.2	▲ 6.3	15.0
業況前年同期比	▲ 12.1	▲ 6.3	5.9
今後3ヶ月間の業況見通し	▲ 12.1	0.0	12.1

[企業コメントより]

- ・従業員、派遣社員の確保が難しい。定着率がなかなか上がらない。(部品製造)
- ・経費の減少(により利益率アップ) (金型製作)
- ・関東で生産しているメーカーがモデルチェンジを控えた端境期となったのが主たる要因です。(日産自動車の関係は、国内生産を減らし、中国生産を増加している状況です) (部品製造)
- ・今まで行ってきた設備投資のおかげで多くのお客様からの引き合いをいただいています。(金属加工業)

その他製造業	前期(1～3月期)	今期(4～6月期)	比較増減
売上高前期比	▲ 15.2	8.3	23.5
売上高前年同期比	3.0	19.4	16.4
仕入単価前期比	▲ 39.4	▲ 50.0	▲ 10.6
利益率前期比	▲ 30.3	▲ 5.6	24.7
資金繰り前年同期比	▲ 18.2	2.8	21.0
従業員前年同期比	12.1	25.0	12.9
業況前期比	▲ 21.2	2.8	24.0
業況前年同期比	▲ 15.2	8.3	23.5
今後3ヶ月間の業況見通し	▲ 3.0	8.3	11.3

[企業コメントより]

- ・年度末から受注案件数が減った。製造トラブルの解決に時間がかかっている。(化学物質製造)
- ・原材料は、なお値上げ基調であるが、受注が堅調である。(板金加工業)
- ・新規受注が増えている為(売上・利益率・業況アップ) (産業用機械製造)
- ・量販店鮮魚部門関係が厳しい為、影響を受けた。(食品製造業)
- ・要因不明、現況最悪。(畳製造業)
- ・鉄骨建物、減っています。工業鉄骨、アパート建物。(住宅用鉄骨製造)

建設業	前期(1~3月期)	今期(4~6月期)	比較増減
売上高前期比	▲ 13.2	▲ 11.4	1.8
売上高前年同期比	▲ 23.7	▲ 5.7	18.0
仕入単価前期比	▲ 36.8	▲ 42.9	▲ 6.1
利益率前期比	▲ 26.3	▲ 17.1	9.2
資金繰り前年同期比	▲ 10.5	▲ 5.7	4.8
従業員前年同期比	▲ 15.8	0.0	15.8
業況前期比	▲ 15.8	▲ 17.1	▲ 1.3
業況前年同期比	▲ 18.4	▲ 20.0	▲ 1.6
今後3ヶ月間の業況見通し	▲ 10.5	▲ 5.7	4.8

[企業コメントより]

- ・年度の変わり目で公共事業についての発注の遅れ。民間事業についても同様。(総合建設業)
- ・6月以降に期待する。(総合建設業)
- ・徐々に競争が激しくなってきたように思う。(造園業)
- ・人員減の為、外注費が増え、利益率は悪い。(造園業)
- ・太田市の入札で大きく変わる。最低価格のコンピューターの選ぶ確率次第。(土木工事業)
- ・公共工事の減少。ゼネコン工事の発注金額の厳しさ。(設備工事業)

卸売業	前期(1~3月期)	今期(4~6月期)	比較増減
売上高前期比	▲ 9.1	▲ 12.5	▲ 3.4
売上高前年同期比	4.5	▲ 4.2	▲ 8.7
仕入単価前期比	▲ 45.5	▲ 62.5	▲ 17.0
利益率前期比	▲ 13.6	4.2	17.8
資金繰り前年同期比	4.5	4.2	▲ 0.3
従業員前年同期比	13.6	20.8	7.2
業況前期比	9.1	▲ 16.7	▲ 25.8
業況前年同期比	0.0	▲ 8.3	▲ 8.3
今後3ヶ月間の業況見通し	4.5	▲ 20.8	▲ 25.3

[企業コメントより]

- ・昨年は、4月、7月、8月に当社としては大型の案件がありましたが、現状では客先の情報は乏しく、大変厳しい状況にあります。主力客先が新年度より購買方針を変更し、競争も厳しく、これまでの対応では難しくなっている(地元優先から価格重視へ)。同業大手が小規模ユーザーに対しても安値販売しており、価格対応に苦慮している。対応できず、やむなく辞退するケースも出てきており、厳しい状況は続きそうだ!!(建材卸売業)
- ・不安要素が多すぎて個人にしろ法人にしろ、建設関係への投資を控えている感が、昨年末より色濃くなってきている気がする。(建材卸売業)
- ・市場が成長産業にもかかわらず、売上が現状維持を脱し切れない。それは、競争激化と国の抑制策が始まり、踊り場状態になってきている為。(医療機器卸売業)
- ・太田市の住宅補助金の件では、申請が登録事業所のみに変更になったことは本当によかったと思います。助かります。ただ始まりが遅くなったり、書類が多すぎて6/1からのスタートですが全部が揃って提出し、3週間の間工事に取りかかれられないという、工事費の大、小にかかわらず、契約して申請を出してから2カ月後の工事になってしまいます。住宅リフォーム課はなぜそんなに時間がかかるのですか？事業所が全部書類集めてチェック済で提出しているのにどういことですか？工期が遅くなり資金繰りに大変困っています。毎日書類集めになっている状態です。補助金の為とは言え書類が多すぎます。個人情報に差しつかえる書類もあります。それと登録業者は勉強会を受講して認定業者になったのだから、もっと早くチェック出来るはずですよ。リフォーム課の職員は何を考えているのですか？企業の事もきちんと考えて欲しい。(住宅建材卸売業)
- ・新規事業がやっと動き出し、売上に繋がってきている。(飲料品卸売業)
- ・一昨年の「改正酒税法」施行に伴う仮需が(H29.3~5月)あり、その裏返しにともなう、前年同期比では大幅に減少となる。平成30年3~4月に関してもビールメーカーの一部商品の値上げ(価格変更)があり、現在も尾を引いている傾向がみられる。夏場の消費に期待する。(酒類卸売業)
- ・自動車補修業界は、安全ブレーキ等の影響で在庫が悪くなっている様だが、当社の場合は特に問題はない。(自動車部品卸売業)
- ・現況厳しいと言ってられない。どんなに厳しくとも、やりぬかなければならないと考えています。(贈答品卸売業)

小売業	前期(1~3月期)	今期(4~6月期)	比較増減
売上高前期比	▲ 42.3	▲ 3.3	39.0
売上高前年同期比	▲ 34.6	▲ 23.3	11.3
仕入単価前期比	▲ 34.6	▲ 40.0	▲ 5.4
利益率前期比	▲ 34.6	▲ 16.7	17.9
資金繰り前年同期比	▲ 23.1	▲ 20.0	3.1
従業員前年同期比	0.0	▲ 3.3	▲ 3.3
業況前期比	▲ 42.3	▲ 26.7	15.6
業況前年同期比	▲ 50.0	▲ 33.3	16.7
今後3ヶ月間の業況見通し	▲ 46.2	▲ 23.3	22.9

[企業コメントより]

・商店街を歩く人が少ない。買い物客が増えるよう願います。良い案がなかなか出てこない・・・。(日用雑貨販売業)

・去年に比べて暑い日が増えているので、(気温が上昇傾向)全体的に売上は少し減少すると予想しています。(菓子販売)

・5月頃から売上が厳しくなっている。(加工食品小売業)

・後ろ向きの意見ばかりがあちこちから聞こえてきます。俗にいう一流企業といわれる会社のみが最高益決算を発表しても、わずかに企業数が2%といわれている会社の影響が地方に波及する確率は相当低いのだろうと想像できます。それでも太田市は富士重工様の存在がありがたいのだと思っております。他市から見れば！！具現化できそうなイベントとして、是非南一番街の舗道を使って、朝市なりテント市、食の催展等、歩道を有効活用していただきたい。組合が主導するば良い話なのでしょうが、組合は人材も資金もありません。(贈答品販売業)

・社員の人件費が上昇し人材確保に困っております。また社員の採用に困っております。(化粧品等販売業)

・4月より暖かい日が続いたため、衣料品に関しては春夏の動きが早く、好調な売上となりました。(洋服販売業)

・目的のものが無いと買わない。カード決済を希望するお客様が時々いる。(でも対応することができない) (酒類販売業)

・仕入値は上昇、利益率は減少傾向にあり、今後の見通しは悪いと思えます。(米穀類販売業)

・運賃上昇による全体的な値上がり(仕入れの)コストアップの一因。それも止むなしと認める雰囲気もある。但し、それを全て売価に転嫁するのは難儀。遅れて利益率の悪化を招いている部分は否めない。全体の底上げがないと状況は低空飛行のままか。(日用雑貨販売業)

・1月～3月は年始や天候の関係で、4月～6月に比べ売上はいつもよりやや少ないです。(化粧品等販売業)

・「日経ヒット商品」掲載により、新規飛び込み、紹介者増。

・ネット予約システム導入(H29.7から)

今年に入り少しずつ増えるも店舗力、人材力不足等受けきれず制限している。問題解決に向けて取り組んでいます。(化粧品等販売業)

・たばこ業界全体としてはマイナス傾向にあるものの、嗜好性の高い手巻きたばこに力を入れており、コンビニとの差別化も進んでいて、お客様に好評を得ています。さらにはJTから発売のプルームテックも先行発売しています(県内10店舗)。これにより集中的にお客様にご来店いただいています。(たばこ販売業)

サービス業	前期(1~3月期)	今期(4~6月期)	比較増減
売上高前期比	▲ 16.7	3.8	20.5
売上高前年同期比	0.0	▲ 7.7	▲ 7.7
仕入単価前期比	▲ 52.4	▲ 44.2	8.2
利益率前期比	▲ 23.8	▲ 21.2	2.6
資金繰り前年同期比	▲ 19.0	▲ 9.6	9.4
従業員前年同期比	2.4	5.8	3.4
業況前期比	▲ 19.0	▲ 11.5	7.5
業況前年同期比	▲ 14.3	▲ 17.3	▲ 3.0
今後3ヶ月間の業況見通し	▲ 7.1	▲ 9.6	▲ 2.5

[企業コメントより]

- ・本業へのリソースの集中。(放送サービス)
- ・スバル車の大きさ、重さが拡大しているため、トラックに積める台数がじりじりと減って、売上が減少している。単価を上げると昨年から言っていたのに、未だに新単価の提示ができない。そうした間にじりじりと赤字幅が増大している。(運送業)
- ・従業員の若返りにより、稼働率が上がったこと。燃料費上昇により、売上が増えても、コストの上昇の方が上回っていること。(運送業)
- ・仕入単価は毎年値上がりしているので、利益率は悪いです。(レストラン)
- ・婚礼、一般宴会が減少しています。ケータリングも大きなものはあまりありませんでした。(飲食等サービス業)
- ・今期(4~6月)は、例年並の売上でした。次期(7~9月)は、夏季ですが猛暑だとお客様が頻繁に来店して頂けますが、冷夏だとお客様が来店に遠のく可能性があります…。天気次第です…。(理美容業)
- ・取扱数量は前年、同年共にさほど変わらず。単価上昇の為、売上高も上昇。もちろん仕入高も上昇。経費も原油高背景に上昇の為、利益率は横ばいか若干のマイナスと思われる。一番の問題が、従業員退職の為、補充しようとしても間に合わせざるをえない状況の為、基本的な取引の状態も見直さなければならない。取引と縮小せざるをえないものも出てきている状況である。弊社のみならず他社も同様。(産廃処理業)
- ・消費活動が良くない。客単価が落ちている。(飲食業)
- ・暖かくなってきたので人が出てきています。またこれから梅雨の時季になるのでいったん減ると思われれます。北口は出張などで来られている方や、街歩きの人が多くみられるようになりました。(飲食業)
- ・ハイブリッド、エコカー、自動ブレーキ等で修理台数は減少している。(自動車钣金サービス)
- ・3月末より原油相場の騰勢が進んでいます。値上がり分を小売価格に反映させていかないと大変です。(ガソリンスタンド)
- ・原価が上がったが、価格を上げておらず、リピーターは増え、多少売上が増加したもののどうしたらいいかという所。配送料、燃料費もキツイです。テイクアウトが増えたが、包材もバカにならず、手間ばかりかかります。(飲食業)

### (3) 全体DI値について

全 体 D I 値	前期(1~3月期)	今期(4~6月期)	比較増減
売上高前期比	▲ 18.0	▲ 1.9	16.1
売上高前年同期比	▲ 9.8	▲ 4.3	5.5
仕入単価前期比	▲ 40.2	▲ 44.0	▲ 3.8
利益率前期比	▲ 25.8	▲ 13.9	11.9
資金繰り前年同期比	▲ 12.4	▲ 7.2	5.2
従業員前年同期比	7.7	12.9	5.2
業況前期比	▲ 19.1	▲ 12.0	7.1
業況前年同期比	▲ 18.0	▲ 12.9	5.1
今後3ヶ月間の業況見通し	▲ 11.9	▲ 7.7	4.2

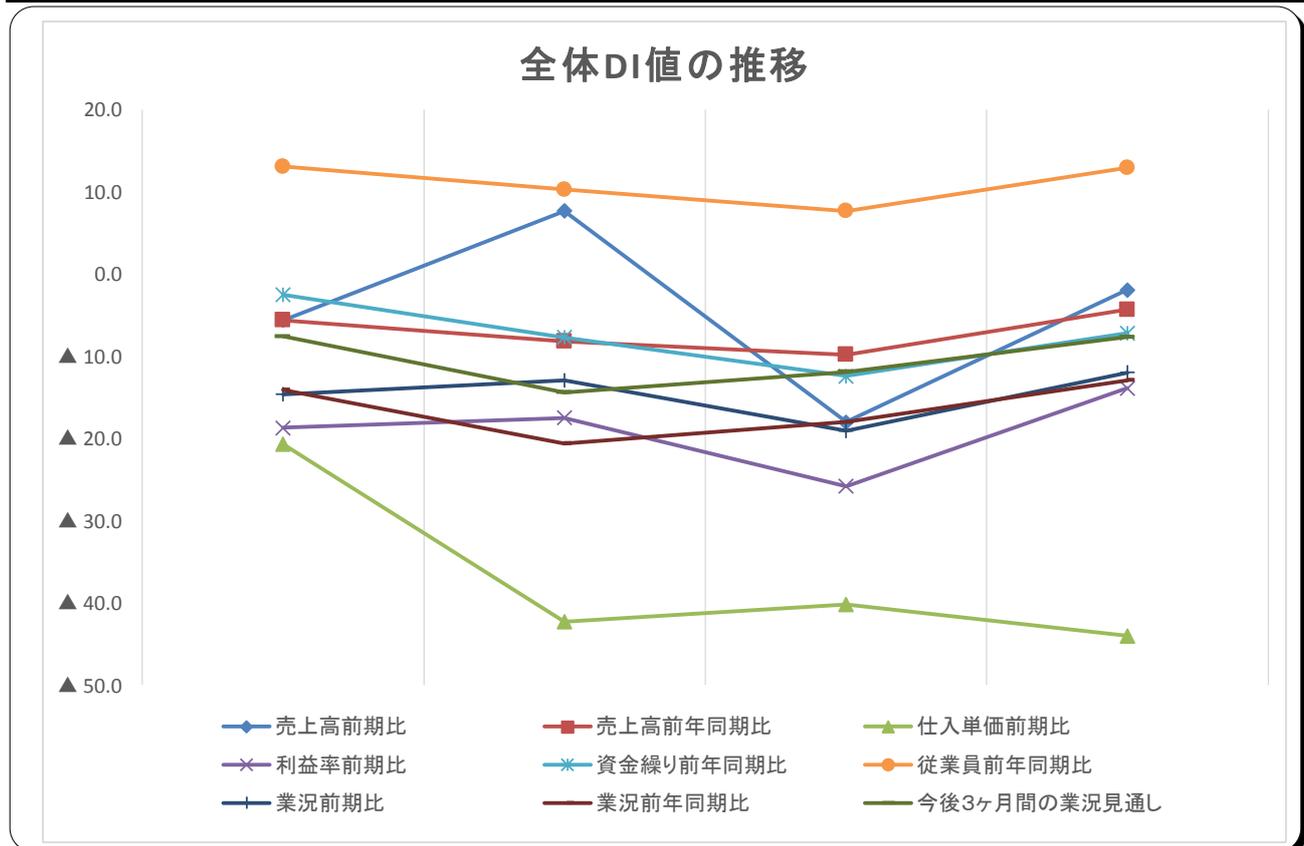
#### 【 動 向 】

今回の調査では、前回調査で大きく悪化した「製造業・小売業・サービス業」を中心に、売上高・業況が大きく回復したが、仕入単価は原油価格高騰の影響もあり、ほぼ全ての業種で上昇傾向となった。

従業員は依然として増える傾向にある事から、人手不足の状況が続いている。更に人手不足による人件費・外注費の上昇や物流費の高騰による利益率の悪化が推察される。

今後3カ月間の業況見通しは、製造業を中心に明るい見通しが伺える結果となった。

全 体 D I 値 の 推 移	2017.7-9期	2017.10-12期	2018.1-3期	2018.4-6期
売上高前期比	▲ 5.6	7.7	▲ 18.0	▲ 1.9
売上高前年同期比	▲ 5.6	▲ 8.2	▲ 9.8	▲ 4.3
仕入単価前期比	▲ 20.7	▲ 42.3	▲ 40.2	▲ 44.0
利益率前期比	▲ 18.7	▲ 17.5	▲ 25.8	▲ 13.9
資金繰り前年同期比	▲ 2.5	▲ 7.7	▲ 12.4	▲ 7.2
従業員前年同期比	13.1	10.3	7.7	12.9
業況前期比	▲ 14.6	▲ 12.9	▲ 19.1	▲ 12.0
業況前年同期比	▲ 14.1	▲ 20.6	▲ 18.0	▲ 12.9
今後3ヶ月間の業況見通し	▲ 7.6	▲ 14.4	▲ 11.9	▲ 7.7



## (4)比較資料編

当所調査のDI値をもとに、同様の景況調査を行っている機関とのデータ比較を行った。

(なお、日本商工会議所のLOBO調査については毎月調査となっているため、4～6月の平均値でDI値を算出)

### ①売上高前期比DI (「増加」と答えた割合－「減少」と答えた割合)

	当所景況調査	中小企業基盤整備機構	日商LOBO	日銀短観(中小企業)
製造業	2.9	▲ 8.3	－	－
建設業	▲ 11.4	▲ 2.8	－	－
卸売業	▲ 12.5	▲ 13.3	－	－
小売業	▲ 3.3	▲ 22.7	－	－
サービス業	3.8	▲ 11.5	－	－
全体	▲ 1.9	▲ 12.5	－	－

### ②売上高前年同期比DI (「増加」と答えた割合－「減少」と答えた割合)

	当所景況調査	中小企業基盤整備機構	日商LOBO	日銀短観(中小企業)
製造業	7.4	－	3.2	1.0
建設業	▲ 5.7	－	▲ 11.1	
卸売業	▲ 4.2	－	▲ 14.3	▲ 0.3
小売業	▲ 23.3	－	▲ 22.9	
サービス業	▲ 7.7	－	▲ 3.6	
全体	▲ 4.3	－	▲ 8.3	0.0

(↑非製造業という括り)

### ③仕入単価前期比DI (「下降」と答えた割合－「増加」と答えた割合)

	当所景況調査	中小企業基盤整備機構	日商LOBO	日銀短観(中小企業)
製造業	▲ 39.7	－	▲ 49.3	－
建設業	▲ 42.9	－	▲ 46.2	－
卸売業	▲ 62.5	－	▲ 34.8	－
小売業	▲ 40.0	－	▲ 36.1	－
サービス業	▲ 44.2	－	▲ 40.4	－
全体	▲ 44.0	－	▲ 42.1	－

(仕入単価・前年同期比)

### ④利益率前期比DI (「好転」と答えた割合－「悪化」と答えた割合)

	当所景況調査	中小企業基盤整備機構	日商LOBO	日銀短観(中小企業)
製造業	▲ 11.8	▲ 14.1	▲ 7.8	▲ 0.1
建設業	▲ 17.1	▲ 12.6	▲ 11.2	
卸売業	4.2	▲ 19.0	▲ 14.1	▲ 6.4
小売業	▲ 16.7	▲ 29.2	▲ 24.3	
サービス業	▲ 21.2	▲ 18.7	▲ 13.0	
全体	▲ 13.9	▲ 19.4	▲ 13.9	▲ 4.6

(採算・前年同期比) (採算・前年同期比) (経常利益・前年同期比)

### ⑤資金繰り前年同期比DI (「好転」と答えた割合－「悪化」と答えた割合)

	当所景況調査	中小企業基盤整備機構	日商LOBO	日銀短観(全規模)
製造業	▲ 4.4	▲ 8.5	▲ 5.2	18.0
建設業	▲ 5.7	▲ 3.6	▲ 4.7	
卸売業	4.2	▲ 9.5	▲ 4.6	19.0
小売業	▲ 20.0	▲ 19.0	▲ 15.5	
サービス業	▲ 9.6	▲ 10.9	▲ 8.6	
全体	▲ 7.2	▲ 11.3	▲ 8.1	18.0

(前期比)

(直近比)

⑥従業員前年同期比DI（「増加」と答えた割合－「減少」と答えた割合）

	当所景況調査	中小企業基盤整備機構	日商LOBO	日銀短観(中小企業)
製造業	29.4	0.3	－	－
建設業	0.0	▲ 2.2	－	－
卸売業	20.8	▲ 0.3	－	－
小売業	▲ 3.3	▲ 6.5	－	－
サービス業	5.8	▲ 5.1	－	－
全体	12.9	▲ 3.4	－	－

⑦業況前期比DI（「好転」と答えた割合－「悪化」と答えた割合）

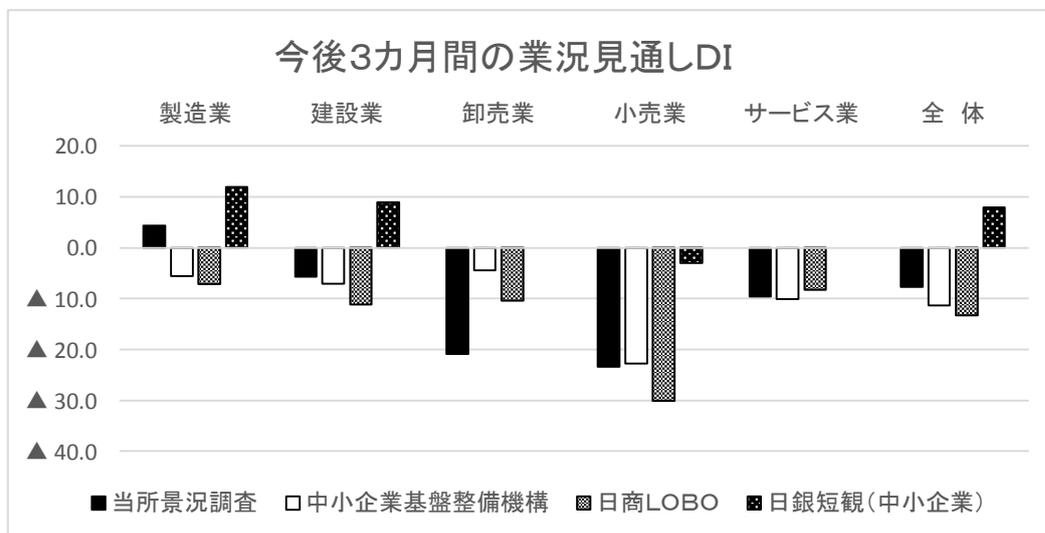
	当所景況調査	中小企業基盤整備機構	日商LOBO	日銀短観(中小企業)
製造業	▲ 1.5	▲ 8.5	－	14.0
建設業	▲ 17.1	▲ 3.8	－	17.0
卸売業	▲ 16.7	▲ 12.0	－	2.0
小売業	▲ 26.7	▲ 26.7	－	▲ 6.0
サービス業	▲ 11.5	▲ 13.5	－	▲ 5.0
全体	▲ 12.0	▲ 14.0	－	11.0

⑧業況前年同期比DI（「好転」と答えた割合－「悪化」と答えた割合）

	当所景況調査	中小企業基盤整備機構	日商LOBO	日銀短観(中小企業)
製造業	1.5	－	▲ 3.9	－
建設業	▲ 20.0	－	▲ 12.7	－
卸売業	▲ 8.3	－	▲ 18.3	－
小売業	▲ 33.3	－	▲ 28.2	－
サービス業	▲ 17.3	－	▲ 9.3	－
全体	▲ 12.9	－	▲ 13.5	－

⑨今後3ヶ月間の業況見通しDI（「好転」と答えた割合－「悪化」と答えた割合）

	当所景況調査	中小企業基盤整備機構	日商LOBO	日銀短観(中小企業)
製造業	4.4	▲ 5.6	▲ 7.1	12.0
建設業	▲ 5.7	▲ 7.0	▲ 11.1	9.0
卸売業	▲ 20.8	▲ 4.4	▲ 10.4	0.0
小売業	▲ 23.3	▲ 22.8	▲ 30.1	▲ 3.0
サービス業	▲ 9.6	▲ 10.1	▲ 8.3	0.0
全体	▲ 7.7	▲ 11.3	▲ 13.3	8.0



# 太田商工会議所管内景況調査報告書

～調査・分析・発行～

太田商工会議所

〒 373-8521

群馬県太田市浜町3-6

TEL 0276 (45) 2121

FAX 0276 (45) 1088

URL <http://www.otacci.or.jp>

Mail [info@staff.otacci.or.jp](mailto:info@staff.otacci.or.jp)

2018年(平成30年)7月5日 発行